

乾道通鑑序

何所冬暖何所夏涼焉有石井何歎能言是  
蒙天霏雪飄去寒氣是也保捺友生向火相話  
產曷<sup>ニ</sup>一<sup>カ</sup>有<sup>ト</sup>南<sup>ノ</sup>々<sup>ヨ</sup>讀<sup>ク</sup>乾<sup>ノ</sup>及<sup>テ</sup>通<sup>ス</sup>鑑<sup>ヲ</sup>乃<sup>チ</sup>大<sup>ニ</sup>隱<sup>シ</sup>殘<sup>ク</sup>口  
カ<sup>カ</sup>所<sup>レ</sup>撰<sup>ル</sup>也<sup>ハ</sup>九<sup>ノ</sup>膠<sup>ノ</sup>柱<sup>ニ</sup>玩<sup>シ</sup>愛<sup>ス</sup>者<sup>ハ</sup>冲<sup>ク</sup>之<sup>ヲ</sup>物<sup>ヲ</sup>排<sup>テ</sup>却<sup>シ</sup>而<sup>シ</sup>恬<sup>シ</sup>  
周<sup>ラ</sup>儻<sup>ト</sup>秉<sup>テ</sup>情<sup>ヲ</sup>剪<sup>リ</sup>煇<sup>キ</sup>人<sup>ハ</sup>見<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>多<sup>ク</sup>擗<sup>テ</sup>賞<sup>ス</sup>而<sup>シ</sup>頷<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>略<sup>シ</sup>跡<sup>ヲ</sup>  
出<sup>テ</sup>漸<sup>ク</sup>意<sup>ヲ</sup>出<sup>テ</sup>考<sup>テ</sup>國<sup>ノ</sup>和<sup>ム</sup>而<sup>シ</sup>述<sup>ス</sup>家<sup>ノ</sup>寵<sup>ヲ</sup>好<sup>ク</sup>述<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>乃<sup>チ</sup>寫<sup>シ</sup>人



情以著伉儷慕之心支竺桑典章播於海  
 次儒稱神樞要貫于毫端人唯不敢嘗狐延  
 之可紙乃評林橫志新解笑海令人報轉  
 譯漢而通俗詢諺以隱詞顧目非淺以於祥  
 定室水支願和親在月寔而棟實如去如波  
 以多四智圓明岸堂了捨教為筏捨去忘心  
 親礪曠得能去盡言細語皆陶弟一象比賦

睦連理好花鳥使亦認為護佛乘緣耶  
 殊口為誰人也蓋前身應須狸奴公姑之精  
 乎匪童去三古佛陀之不知况又辯深可  
 答夫云問者偉矣哉於此乘興裁為之序  
 八味詩軒渠々々詩田  
 狂者世雙殊口為千言並語出胸中於鈞常  
 入去如海精鑑人情通又通

皆

正徳五乙未春  
山或菴之樗叟人  
以筆  
之鶴鷄軒



久松天が妙  
新金地  
真鏡それ  
曇り世  
妙の國  
氏豊  
正  
柱の  
幾  
守  
長くし  
に  
気  
を  
の  
一  
人  
負  
け  
し  
て  
後  
を  
記  
す  
れ  
ば  
生  
は  
大  
平  
日  
と  
し  
て  
春  
の  
あ  
ら  
ま  
い  
し  
の  
事  
は  
是  
矣  
由  
は  
勝  
て  
神  
の  
慈  
視  
の  
か  
ら  
事  
は  
心  
を  
し  
志  
を  
お  
よ  
び  
十  
八  
年  
間

武家ノ子ノ入ル六百年ノ頼朝郷  
父子三代五代ノ軍尊氏郷ノ世織田豊  
平ノ幾静ル世ノ七道ノ一ノ國  
東海ノ車由ニ南海ノ鯨吼ノ山ノ大  
三ノ世ノやあノ世ノ人ノ毎ノ儀  
器校威風強ノ化ノ化ノ兄才鋒楯  
君長ノ世ノ青表ノの世ノ不

ゆゑノ世ノ是己ノ欲丁ノ私ノ天心  
よゆ世ノ慶長一統ノ治天  
百有余年四夷静ノ八蠻治ノ國風豊  
万民和ニてカクニ千秋樂と唱ノ家ノくに  
美ノ事樂風ノこと偏ノ天ノ稟地ノ封  
テ明君ノ神武聖文ノ德澤寛仁大度  
ハ餘薰ノりニ仰ノ今東ノ一白ノの

祥光よあつたりのよふ天下新代は重宝  
 七珠の随一あり金銀ありぬめでたき世の  
 びに帰すおぼえに思ふにふし  
 わい益世上淳素あり美人堂これ  
 化し寄ん野叟残口ハ芝類の貧窮は  
 貧寒の兒みれも閑きそは徳家  
 おととて恐まき君の口く歳を家  
 義家

表い何事ともいへし場本立て  
 道つたれか入つたきも老のよ  
 下りて賤言葉をいへ  
 書ありあつた塵芥よ  
 神ありあつたあつた  
 承正直入頭をいへたま

維時

〇〇〇〇〇〇〇〇

三

正徳六年己未

卯月八日

似切



艶道通鑑卷之一

神祇之巻目録

- 一 けしきねいさうかの殿
- 二 天地澤合し申れ殿
- 三 三編の明神乃殿
- 四 賀茂乃明神の殿
- 五 大和國布留れ社乃殿
- 六 日本武尊乃殿
- 七 元恭天皇の殿
- 八 宇治の橋姫乃殿

神祇之巻目録

四

九 うはかりの段

十 かくや姫の段

十一 常陸常代姫の段

十二 黄楊の小掃の段

十三 在原業平の段

十四 光徳氏の段

十五 釋の洋藏の段

十六 伊人團むのの段

一

けしきゆいとうるふ。何事いひしむ。大まふさくく及び  
 ざんて。道いそそ稱。誠い失ふ。智者い過る。と。彼子  
 ことかぬ泥て。きんしの唐本よむ。むづむづ。わ國の近道  
 かる教と。俗に。落し。まじめて。足本のゆき。みだり。愚者の  
 及び。うい。一文不通。あて。芦の糖より。天上のなごり。て。眼目  
 ふく。げら。物。きん。事。つ。ま。く。要。公。さ。じ。善。公。す  
 ひら。れ。を。し。わ。漢。の。あ。書。こ。國。の。竹。文。車。ハ。万。枝。一。枝。牛。ハ  
 千。毛。汗。く。じ。善。言。ハ。古。人。の。糠。粕。さ。ん。い。情。藏。人。の。涎。を  
 る。ち。て。も。蓋。か。た。る。さ。ぐ。鋸。屑。の。ゆ。い。強。く。も。わ。く。と。を  
 そ。と。ら。ひ。掃。溜。と。ら。げ。て。る。水。れ。い。の。臭。い。人。里。に。て。又。本。の



人倫の道なり。何事と云ふべし。元人神道のまじり。夫婦より  
ふけまら。うけ奉覚の佛の形なり。性神の姿を別たす  
実相陰陽不測なり。天地の間。形あり。のいけ神は佛  
の姿なり。今世。拜し敬ふ神なり。父母ありて生れ出さるる  
るに。始成の佛。有るの神なり。男男女女夫婦の  
情をこころいふ事。易の象の卦の傳に云。天地を而  
男女あり。男女あり。而夫婦あり。其后。社をいへ。人とお  
かす事。男女の形をみる事。造化の妙なり。夫合乃情の  
人の作事なり。人道立ての佛は神道老孔社列なり。  
古今の夫婦と世の根源とをいふ事。その夫婦和をいふ事。

一日と道のうぐい。道さけし。後には。後さけし。世裏に。と。件  
根。夫婦夫婦のまじり。なる事。小のい。乃。後。さ。く。あ。て。は。い。考  
れ。失。慮。も。絶。え。ん。と。と。出。し。其。夫。婦。の。情。と。い。ふ。の。う。ぐ。い。り  
う。ぐ。い。し。て。は。ま。り。業。の。あ。ら。は。れ。を。考。え。る。新。島。中。將。の。人。鏡。録  
之。隣。の。誰。身。の。と。い。ふ。書。も。あ。り。神。國。に。守。り。て。社。の。神。殿。と。作。ら  
れ。ど。大。き。く。和。の。字。は。い。て。異。國。の。教。と。ま。り。と。あ。ま。  
大。き。く。理。の。ま。り。と。い。は。れ。る。神。代。より。に。来。り。と。分。り。合。紙  
う。ぐ。い。親。を。と。と。い。は。れ。和。と。本。や。り。て。夫婦。なり。人。主。の。三。十  
代。より。て。此。格。と。い。は。れ。歴。史。の。詳。也。と。い。は。り。空。穂。行。取。り  
ひ。り。源。氏。袂。衣。伊。勢。采。女。の。物。倍。男。の。女。め。け。と。い。は。れ。女。の。男。め。

こゝろをたて一夜の契もなすまじく百年の命も物うたかりぬ  
まじく餘り和をてどよりありなりと異國に禮と傳へて節  
を用い來りふじらつて其禮つらりと守りて根本の和ス  
道は失ふ唐も昔の和とさびて礼を行ひにいつたはらう  
礼のわらうと和を失いん禮記に禮勝則難と樂勝則禮と  
禮の勝とい和の本かたはよ歌う也樂の勝とい礼の言さる  
ゆゑは流る也和といそれとゆひれとい和といとせむも  
とらふはらうと道中とつづきふ今も世の古根よるはれづ  
とらふらうとつづきわきの道を根をたえまじりまじり  
とらふらうとつづき君が平かたは兄弟あつてうけと  
とらふらうとつづき

撰り礼を以て節とらう節高はめていしく難とては  
とらふはらうとつづきわきの道を根をたえまじりまじり  
とらふらうとつづき君が平かたは兄弟あつてうけと  
とらふらうとつづき  
のこゝろをかたはらうとつづき礼は泥じの偏僻して慮るは  
職なり我朝は生れらる人神代に徳化を明らふと  
たまふ和の域を本とし及びばらうと教はらう道り  
足と踏らうとわらうは浦の縁よるはたなくとらう忌幕は別  
の情に風花月の樂をとらうと本とらう君とらう  
けとらう和らうとらう唐の礼をも傳へてとらう  
とらうと會舞といとらうとらうとらうとらうとらう





神祇

不具あり。面足るふて。金神をあり。ひて其次。伊弉諾伊  
イ弉諾イ弉諾 伊弉册を化して天のは橋の上にて。適命多して。伊弉諾の曰。我は  
ひら 一乃雄の元。湯乃餘らる。あわりと。伊弉册言て。我は一乃雌の  
えん 元。陰れ欠らる。あまると。男神言ふ。我餘らる。ねを。汝の欠らる。お  
ふ 小命をえんと。是夫婦混合たり。あまらふ。女神先は。唱て。不具あ  
と 男に遇らんと。音まらふ。男神不祥と。まらひて。再会合す。ま  
ら 一乃男神不具あまらふ。遇らんと。殺して。うけより。一女之男と化生  
ひら たり。陽後。陰吹。天地のは也。都也。  
交 交合を。あまらふ。うけより。男神たり。  
ひら 蛭子の海は。流し。素盞雄を。ぞ。げ。國を。領らる。と。徳。西。に。  
は 是。其。母の。降。公。う。と。ま。ま。せ。ま。た。ま。ら。げ。ハ。國。公。を。あ。ら。り。や。り。其

後姉の天神。誓言。湯の中に。清子を生て。天の思。極。耳。れ。尊  
ひ け。り。ま。り。是。東。神。秘。也。う。け。より。素。盞。雄。出。雲。國。手。摩。訶。み。付。て。  
ハ 八。岐。乃。大。蛇。と。退。治。し。ま。り。て。稻。田。姫。と。嫁。り。大。己。貴。乃。成。り。や。り。  
大 大。己。貴。千。と。幡。姫。と。あ。ら。と。運。び。て。あ。い。通。す。その。行。素。盞。雄  
の の。ふ。く。と。成。り。け。り。ま。り。と。ま。ら。せ。り。情。う。ら。り。事。也。終。り。  
幡 幡。姫。と。嫁。て。一。百。八。十。神。と。う。や。り。  
覆 覆。々。杵。の。尊。と。り。な。り。天。照。大。神。れ。皇。孫。此。下。界。へ。天。降。  
は は。り。と。て。日。本。と。知。り。や。け。り。終。り。清。神。か。り。天。より。下。  
を を。終。り。折。り。本。の。に。吸。耶。姫。と。一。夜。の。契。と。結。ぶ。せ。り。あ。り。て。  
は は。土。へ。ち。を。あ。ら。り。候。耶。姫。を。あ。り。て。尊。の。清。子。成。ま。り。け

あまのついでに。さうけをたつど。一夜をて子孫のやう事  
つづくとさう。嘆那作と立多いて。あけ子若う子さ  
どの火にく焼らん。若う子さう。煽ふもゆる事有はと。生  
ま子孫。火の中に入らう。善かく守まらぬ。うの名火とあ  
見の尊と。やまら

是又ほの世に。あまのついでに。さうけをたつど。一夜をて子孫のやう事  
つづくとさう。嘆那作と立多いて。あけ子若う子さ  
どの火にく焼らん。若う子さう。煽ふもゆる事有はと。生  
ま子孫。火の中に入らう。善かく守まらぬ。うの名火とあ  
見の尊と。やまら

玉姫の産屋にて。わぬ姿のわらわゆ。竜の宮に降まい  
て。中妹の玉依姫と。幼子れ極活は。はうり。若う事有はと。生  
ま子孫。火の中に入らう。善かく守まらぬ。うの名火とあ  
見の尊と。やまら

志げのいりし妻は文和の國ふ年久しき主婦ぬものも八千代を  
 ちかむまほつめをこぞおぼひのふぞはけし夜にけしは言ふは  
 評とく年久しき主婦の者といふ年七十年も最早親  
 兄才とわづれ誓とをぞわけて主婦といふに思ひのた  
 ぶらば志るふおれいりまの書あつたりけり此男のや  
 どのと聞えり。主農工高日課のふ作ありて親とまひ  
 妻子ぬんごくじ。志るふ夜にゆりけし通ひて盡る親を  
 みせざりし親よ射してまれ。且亦まふし情をくくやれ曲  
 若とまらりして。五十年も契くんいづりやとてりせん  
 さく神代の直方りの此事たり。我身と書りれ。この人乃

かげと。夜合につかろの。其人を大切とてぞかれん。  
 主の恩とて同く他人にまの義理つらなり。そと一皮も  
 へとゆるして。一夜の枕も二せりてとて上情の激甚も外  
 の欲もたごぶとれ。其人れをうけて通ひ來のこころを  
 年月たまりきり。その人乃契く。夜づりいりてけり。や  
 ろもよ契とちかんといひ。主婦のままにあり。おれ  
 ぞうた。主のつごをまらむらひ。いひゆればが。ゆれ  
 まかり。まらるるに今時入舞にゆもの。恩はあらはけり。  
 老のゆく。府身をこころめ。契るるは物と得てん。まを  
 おとあり女房の。まとい尻もあつ。おれとる程の。ある契

四

しては誰にゆきらく親もは非情の金銀が感あふ  
 かりてすべて人情のまゝ下へ下へ至りては  
 て女房抱いせられ損ぬて退出し女房のまゝは  
 るるに已むるまゝあらばい淋かたし口強よわく是  
 衣合の袂のひらいて陸湯の湯をきくはれぬ  
 寒ても情乃まゝいさるはうそ夫婦といふも  
 してんらよ方便されしつて世のふりかると  
 三橋の祖をい子細らしくおぼゆる程つと  
 何れ事ともつとまゝならは孝行を親のつと  
 石川や津さとの小川は清く水物ありし女ありし  
 鴨の羽の丹塗

五

乃矢流るるて女の腹よそゆり。う種を持るる  
 男は子成せり。此女れ爺やうさけり。東は母ま  
 其まをさくも娘返るやと。かく村中れ若者  
 ぬへまごころあつて。此子が三葉にぬ年。そ  
 酒を三。此子の盃はもて爺はさるる。此子  
 けいれ丹塗の矢ぬ。此盃は指くと。神祕な  
 いんぬま。あやうい。この昔のやうな  
 の矢の松尾の卯神娘の乱乃宮。其子と  
 大和乃石の上。布留の社と鈕の流く。女乃  
 二布はくま



六

日本武の尊に東に於ていしまさる。安房の海に於てはのまはる  
けみあやしく尊に命のさかて致しをまつた。立たぬあまら  
に立。天地よりい海を飛入す。風靜に信也さるる。所  
再恙なく。終り東に夷を打ちつ。都々のがらあま。確井  
乃時を事成えり。姫のけ身代に立る。成たり。吾  
まらせまら。東國をわすれし。此尊は長一丈  
ほそ。力千にわたり。勇猛強勢なるゆへ。夷に威力をせり。  
信候の毒蛇をうきまて。人情のいつくまゆく。海  
せ終る。いりて。立たぬ姫の身を於て。は命にうり。あまらる。を  
ばよのあまら。とれ終り。軍務にわける。たよのそまをい。た

七

と陸の内よりまじら。中流よりかへけんよ。まら。い。ま。ま  
中風情もかく。武名と八洲より。もあ。いて。都ののま。ま  
何れ。とれより。えゆ。て。意。果。た。る。一。度。の。張。一。ひ。の。地。  
時を失く。能はる。よ。は。身。操。る。後。は。い。と。日。を。武。と。り。め。し  
元。茶。天。宮。に。り。す。帝。天。下。に。成。る。一。つ。の。時。世。乃  
ゆ。ゆ。り。民。ゆ。り。く。中。惠。の。か。ら。う。と。ゆ。く。美。ゆ。ゆ。だ  
う。い。後。の。ま。ら。る。人。れ。さ。い。つ。と。な。ら。事。大。く。れ。は。安。み  
衣。通。娘。と。り。の。津。后。忍。坂。姫。乃。中。妹。と。て。中。髪。の。ま。ら。ら。  
中。眉。目。う。け。く。を。輕。和。る。於。中。姿。婢。始。め。中。取。風。信。紅  
粉。の。赤。を。め。は。白。粉。の。ま。ら。と。と。雁。い。ら。化。粧。月。に。た。と

日本武

日本武

わらめみみびまねのけまるんば膚のまは袍りとうち  
わくそ衣通作とそ名付もたれいづれれ人もんるる  
因よ忘もりるれど情いあまるりりりり結ぶ信も乃  
えあもそ宿寐をささるああに帝人ふれと通り  
あしてあれたい入とあせり婦の后も本より世に捨れ  
けはまるれど婦君よいなさくかきさあゆ昔も今も増  
たは輪り世のを婦君妬うはほもあに帝彼に恵もほそに  
氣けりそそし捨るれ信に信りさあゆあれといよるれ義  
理づあされに汝身に疎く彼方の塵りれ泥積りいそ重く  
多き余は目の因はよく人れ口悪るれはばらういふそくさそそ

あがし通の向きもあさる。娘いそ其方れそあなるり  
詠がらゆりけりは好端。珠てま法の系列でほりしめ  
我宵子があぶ赤宵よりけりふ乃  
珠のゆりまいり糸そあねりそ  
やなん。さうより後帝いうまわあねまそあいそん婦  
妹さあさる。け二人あよけいりそいりかりあまそあ  
乃深と新らうりも浦うりいど。賤と下さぬのあ。鳥と  
がらと口線りり。けりまに似るもあは。舜王乃娥皇女  
英乃。二女を姫て。秘なりしけりいそくえりり  
評とく。此昔の意乃。識和して遠さるの志。新代の遺風

うよたつた也。扱ぞ玉津島の神靈。じつりのどく。末の守ふ  
跡をそねむるべし。じつり死男女の中せむ。貴万代と名眼  
あつん。五器血中ぶつて。角目立つてん。いつたうそとくぞ  
神慮をふれ。ちりま。色とつて。一端の移みで。刻を  
乃さけ。つて。十人の妻。百人の巾。直わりのも。いそそい  
おひね。あそい。つた。今時の人れ。公。南分。け。色に。あ。ご。つ。統  
浮氣の熱。よ。い。か。して。産。か。う。れ。泥。よ。ぶ。つ。也。馬。ま。き。誓。と  
ま。く。口。説。み。女。れ。存。魂。ぬ。い。こ。を。あ。ぶ。ら。ち。し。う。風。ね。と  
な。て。末。と。げ。ぬ。事。い。う。く。や。さ。ぶ。ま。ぬ。扱。う。ま。ぐ。ぬ。と。娘  
や。じ。ひ。ぬ。く。ぬ。り。け。傍。れ。た。男。れ。方。よ。い。奉。り。り。南。た。れ。事。久

代されば。あ。え。し。き。も。せ。あ。じ。ご。さ。又。女。の。方。より。仕。ら。ん。う。そ  
も。男。つ。た。不。當。さ。い。う。う。て。鼻。の。さ。れ。り。さ。り。か。れ。べ。彼。男  
乃。水。奥。より。志。ら。を。れ。を。口。傍。く。を。角。と。を。あ。く。よ。り。ぬ。又  
深。く。さ。ふ。ぬ。ぬ。人。わ。れ。い。甚。候。う。統。よ。か。う。く。も。の。也。又。男。も  
女。も。さ。さ。ぐ。う。分。道。さ。る。ぬ。よ。い。あ。そ。で。あ。も。も。う。さ。い。さ。れ  
く。覚。束。さ。り。て。生。涯。こ。つ。つ。ぬ。ぬ。あり。又。彼。う。此。う。と。う。た  
ぐ。り。に。面。白。う。け。う。中。う。う。ぬ。中。う。け。て。う。け。う。ぬ。あ。ら。  
右。伴。の。女。の。神。の本。は。釘。打。程。の。短。し。物。也。又。同。穴。の。名  
を。守。り。て。あ。ま。み。花。や。ぬ。も。る。ぬ。よ。の。也。元。社。の。本。に。釘  
打。程。の。短。し。の。奉。り。男。い。う。と。吾。体。と。守。り。て。こ。の



清く静くも思ふごとく。さしあけをば。びびりに通るを。いそ  
本より男もね。こゝろ得て。帆をた。風乃種を。たのめ。たて。  
さびくづり。れ返す。ま。を。けり。女。の。尻。を。れ。ま。へ。に。想。ま。忘。を。傳。  
ゆ。こ。男。の。竹。の。筒。音。ふ。哀。慕。を。な。り。し。て。さ。い。の。息。を。壁。紙。不。  
さ。る。件。で。あ。ぢ。し。ま。こ。入。行。よ。同。ま。く。み。母。同。え。て。似。合。  
ま。は。る。い。結。し。も。さ。あ。さ。ん。ぬ。さ。い。合。し。ぬ。さ。も。著。り。し。書。く。  
さ。の。筒。音。も。ゆ。り。て。さ。い。ぬ。息。を。よ。の。竹。よ。色。よ。う。の。ま。り。さ。る。  
結。び。下。細。と。け。り。て。さ。止。ま。さ。ぬ。ま。へ。に。潤。わ。た。の。世。も。そ。乃。  
さ。れ。し。欲。う。た。契。よ。さ。ら。ぬ。目。を。さ。み。あ。ぬ。あ。と。さ。ら。て。物。並。  
他。を。い。た。り。き。あ。る。ふ。彼。男。の。南。女。是。も。十。六。年。此。の。時。著。す。

あ。の。ま。打。後。で。姨。君。ふ。り。り。て。一。年。餘。り。の。さ。さ。さ。ら。が。い。げ。く。も。  
女。は。寿。合。い。を。し。た。殿。子。れ。さ。ら。さ。り。北。の。殿。子。れ。越。し。て。情。ら。  
し。ま。不。秋。夜。も。合。格。し。て。肉。お。よ。く。ゆ。つ。さ。あ。い。て。つ。て。こ。の。ほ。ま。  
あ。ん。ど。水。司。信。女。者。の。激。突。て。物。傳。と。う。城。け。指。も。け。な。つ。と。そ。  
な。指。の。殿。子。に。只。一。度。忙。し。い。づ。り。れ。一。と。と。人。げ。て。さ。い。さ。い。は。  
り。こ。さ。ら。ら。る。物。傳。の。ゆ。り。さ。ふ。ば。さ。細。ろ。く。そ。彼。男。に。終。合。  
ぬ。下。さ。が。か。ひ。し。れ。わ。ほ。ほ。さ。り。け。さ。い。そ。れ。が。と。れ。結。し。ぬ。男。れ。方。  
小。も。供。り。奴。う。わ。れ。い。と。さ。さ。さ。る。ふ。あ。ぢ。ら。ぬ。さ。ら。ぬ。息。と。さ。  
合。し。男。も。ね。り。る。月。は。つ。い。と。い。づ。女。の。い。と。う。う。れ。を。さ。ん。と。して。  
さ。ん。と。物。並。を。教。え。その。さ。ら。り。さ。中。く。同。乃。び。一。へ。物。乃。教。

○下巻

○十八

ちよひ。さういふ一なも誰袖ふれしはもねむ。其このりこ  
 のりりりね。おし。格合は氣もあはせむ。うけり。おつあふ  
 わらわう。通きさういふ。はと君と。いつく。うかまはせぬ。  
 地塚うづか。そ今向し。ゆもん。神のひらも。よ中を。おさう。うて。此  
 側わきよ。てね人乃庵いんへ。けい。い。ん。といふ。よ。娘も。んや。福ふくの。香か  
 ら。ご。ま。う。ま。つ。ぬ。の。庵に。連つら立。り。て。お。せ。ら。酒。筒ひんに  
 ら。じ。香か。う。か。下。こ。い。酒。も。め。て。お。い。の。と。え。れ。今。ひ。り。世。の  
 事ことに。盡つく。て。と。お。ろ。ろ。け。じ。う。宴うたげ。を。ふ。呂。律りつも。も。つ。れ。よ  
 一。所。採。種とく。も。ぬ。ぬ。庵。の。ま。も。物。仕もの。と。ほ。原。風はらかぜ。を。ま。つ。い。窓まど。こ  
 して。お。は。体てい。と。り。う。回まわ。た。ら。う。と。其。座ざ。を。と。り。う。り。娘。が

袖そで。つ。て。枕まくら。二。つ。又。身み。を。倒た。し。う。れ。さ。坂。田。同どう。り。ふ。打。突う。ら。ぬ  
 がい。の。籠かご。穴あな。又。此。方あた。も。さ。ん。と。も。あ。り。て。一。向。今いま。の。香か。終は。り。あ。れ  
 終は。り。い。ひ。ら。穴あな。も。と。ほ。さ。さ。契ちぎ。り。と。ぬ。の。り。枕まくら。より。か。は。い。志し。じ  
 や。ご。よ。細こ。ま。と。も。壁かべ。の。身み。や。が。つ。つ。け。て。窓まど。乃なり。に。ぬ。め。い。ん。する  
 う。さ。り。れ。娘むすめ。と。お。れ。り。此。程このほど。い。ま。の。毎まい。日にち。も。と。こ。は。香か。終は  
 う。と。一。窓。格か。の。板いた。れ。通とお。ひ。も。な。り。じ。と。香か。や。あ。ん。南なん。や。海うみ。を  
 ろ。よ。ご。と。鳥とり。鳴な。き。さ。ん。氣き。お。り。け。て。仕し。合あ。へ。せ。川がわ。を。宴うたげ。お。い。ら  
 ろ。ご。を。さ。は。く。せ。ぬ。お。り。石。埒いし。を。ま。か。し。ひ。ひ。火ひ。の。息いき  
 よ。い。ご。ら。う。く。する。ふ。は。ま。し。く。れ。女おんな。も。は。勇。情ゆうじやう。氣き。乃なり。も。急いそ。じ  
 と。も。い。て。乳。母ちち。が。葉は。と。焼や。吹ふ。つ。き。る。み。川。沿がわ。の。水みづ。ハ。煮に。え。り。玉

〇中  
 〇十九

敬むらう涌くる。いづきふが例ふまは。跡の世もさるれ海  
 ともさるれ。みの谷れ海とさるれ。いづきふも今の間いづり  
 みる色うりり。親きまどてまねふ。に身を宇治の川流し  
 流る。いづりて一七粒。丹後赤き鬼女。その黒髪がこら  
 文字。朱れ角文字。角立て。ゆがり文字。女夫婦に。念入一  
 室とま車に。通さどかどや。あまさと。後弟。兄弟の末葉  
 まて。七代子孫ととりと。親と。その怨執を。結つ。宇治の  
 栲娘と。あまうと。や。  
人づい山里よりあまは栲とほふぬ  
 丹後の姫は金車とあまうとや  
 ほとく。面向逆則。是順。悪く強々れば。さるれ。はし。是  
 かのをさるれ。神よ。あまうと。此。末のせまて。うめとさ

みるあひさん女ハ。行て。あまうと。得べ。まを。はよく  
 大切。あまうと。預も。あまうと。妻と。あまうと。あまうと。  
 久らて。神の。あまうと。あまうと。長。嘯子。け。あまうと。  
 ち。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。

神のへば。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。

一生。文。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。  
 か。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。  
 て。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。  
 分。神の。悪も。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。  
 救。爪。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。あまうと。

未<sup>こ</sup>来<sup>ら</sup>へ<sup>ら</sup>う<sup>の</sup>の<sup>の</sup>群<sup>ぐん</sup>樵<sup>しやう</sup>と<sup>や</sup>い<sup>ふ</sup>物<sup>もの</sup>は<sup>生</sup>れ<sup>見</sup>物<sup>けんぶつ</sup>の<sup>月</sup>り<sup>あ</sup>く<sup>洞</sup>窟<sup>くわう</sup>の<sup>耳</sup>も<sup>な</sup>く<sup>ば</sup>ぐ<sup>り</sup>者<sup>もの</sup>を<sup>お</sup>し<sup>げ</sup>ぬ<sup>僻</sup>物<sup>へきぶつ</sup>。魚<sup>い</sup>中<sup>な</sup>に<sup>鉦</sup>お<sup>く</sup>蟻<sup>あ</sup>

九

清<sup>きよ</sup>京<sup>きやう</sup>の<sup>俊</sup>蔭<sup>しん</sup>高<sup>たか</sup>を<sup>使</sup>て<sup>観</sup>世<sup>くわん</sup>音<sup>おん</sup>の<sup>意</sup>眼<sup>いげん</sup>か<sup>う</sup>り<sup>て</sup>世<sup>よ</sup>に<sup>ぐ</sup>

一<sup>い</sup>き<sup>契</sup>を<sup>得</sup>て<sup>和</sup>朝<sup>わ</sup>一<sup>いち</sup>を<sup>く</sup>人<sup>ひと</sup>に<sup>教</sup>る<sup>事</sup>は<sup>な</sup>れ<sup>ず</sup>。我<sup>わ</sup>娘<sup>むすめ</sup>の<sup>い</sup>と

の<sup>煙</sup>さ<sup>へ</sup>終<sup>は</sup>る<sup>ま</sup>じ<sup>も</sup>。う<sup>終</sup>を<sup>り</sup>し<sup>も</sup>あ<sup>ひ</sup>に<sup>は</sup>娘<sup>むすめ</sup>の<sup>長</sup>女<sup>ながむすめ</sup>

一<sup>い</sup>く<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>潔</sup>あ<sup>ら</sup>ふ。大<sup>だい</sup>四<sup>し</sup>の<sup>と</sup>下<sup>げ</sup>一<sup>いち</sup>を<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>け</sup>

ざ<sup>ら</sup>い<sup>か</sup>う<sup>の</sup>形<sup>かたち</sup>容<sup>よう</sup>は<sup>い</sup>く<sup>ま</sup>が<sup>は</sup>ら<sup>せ</sup>一<sup>いち</sup>曲<sup>きよく</sup>の<sup>き</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>た<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>

ま<sup>ま</sup>の<sup>妙</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>け</sup>月<sup>つき</sup>に<sup>ひ</sup>ら<sup>い</sup>た<sup>ま</sup>は<sup>お</sup>て<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>探</sup>は<sup>し</sup>り<sup>し</sup>



○中紙巻

○二冊



言色は約客足をとらむ。若く耳を傾きへ感涙ながれ  
被といふ。古の伯牙が調へ子期のもを言伝ふ。小此熊乃  
現うへ。あやめと賊も耳にさへられ終へ。もれおりのもさる。牙  
あられ。同さる。れ。地方より。後蔭小か。うひりて。ひく入んとを  
あ。大。後蔭ひひ。娘が幸い。天道にまうせなる。天の授けらる  
國母も。授けらる。女と賊の子も。秘合う。とて。おれ。れ  
使女の。中道な。ぐい。あ。人。も。門。う。あ。て。入。と。ば。す。て。娘  
あ。か。く。制。て。返。事。も。さ。せ。け。り。行。つ。て。又。母。も。や。り。く。ぬ。て。  
始。ひ。り。さ。る。宿。よ。あ。き。傳。く。や。の。ま。く。じ。さ。れ。と。平。人  
る。あ。ゆ。り。や。世。集。乃。編。藩。へ。ま。で。ひ。や。め。ら。る。ま。た。眉。目

容へて。う。う。あ。り。て。お。け。け。る。う。の。お。き。り。れ。お。改。大。長。乃。後  
諸。あ。り。あ。次。帝。あ。り。る。ゆ。子。け。あ。ら。る。屋。に。立。体。ひ。ま。り。れ。  
授。け。ら。る。て。う。の。帰。る。さ。ふ。彼。ゆ。子。立。身。あ。り。て。け。く。あ。ら。る。え  
風の事と。所は。あ。み。で。今。月。日。の。う。れ。と。結。て。人。あ。て。よ。け。か。く  
ま。で。あ。こ。が。れ。る。ひ。あ。ぬ。と。お。き。り。れ。の。あ。り。に。あ。ら。る。さ。き。え  
あ。り。や。ば。く。う。め。返。答。して。う。の。授。け。ら。る。この。さ。ひ。り。ろ。う。  
あ。り。ら。る。う。れ。つ。附。記。千。夜。と。一。夜。れ。け。あ。ら。る。と。お。り。て。を  
も。ま。の。あ。り。う。り。て。う。り。あ。ひ。が。た。が。ひ。よ。さ。け。り。一。を  
あ。り。て。獨。乃。男。子。生。れ。来。り。て。さ。ら。や。ら。れ。る。あ。ら。る。  
評。小。え。ら。る。を。情。む。者。の。利。を。し。と。が。り。後。利。よ。ま。ら。る。者。の

名を捨<sup>す</sup>果<sup>ま</sup>美<sup>ま</sup>の名。美の利<sup>り</sup>よわ<sup>げ</sup>。果<sup>ぐ</sup>け<sup>け</sup>同<sup>ど</sup>瓜<sup>か</sup>よりこ<sup>こ</sup>は  
 ぬ。美<sup>み</sup>ち<sup>ち</sup>る<sup>る</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>る<sup>る</sup>ぬ。優<sup>う</sup>落<sup>らく</sup>が<sup>が</sup>名<sup>な</sup>をも<sup>も</sup>情<sup>じやう</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>利<sup>り</sup>あり  
 解<sup>げ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>より。解<sup>げ</sup>が<sup>が</sup>末<sup>まつ</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>た<sup>た</sup>大<sup>だい</sup>利<sup>り</sup>と<sup>と</sup>得<sup>とく</sup>。優<sup>う</sup>落<sup>らく</sup>が<sup>が</sup>名<sup>な</sup>も  
 今<sup>いま</sup>に<sup>に</sup>解<sup>げ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>大<sup>だい</sup>る<sup>る</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>名<sup>な</sup>瓜<sup>か</sup>月<sup>げつ</sup>日<sup>にち</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>解<sup>げ</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>陰<sup>いん</sup>使<sup>し</sup>  
 照<sup>てう</sup>つ<sup>つ</sup>よ<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>の<sup>の</sup>代<sup>だい</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>代<sup>だい</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>代<sup>だい</sup>り<sup>り</sup>。然<sup>しか</sup>に<sup>に</sup>麻<sup>ま</sup>前<sup>ぜん</sup>  
 と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>り<sup>り</sup>。精<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>菜<sup>さい</sup>瓜<sup>か</sup>け<sup>け</sup>と<sup>と</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>る<sup>る</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。後<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>訓<sup>くん</sup>讀<sup>どく</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>る<sup>る</sup>ぬ  
 勿<sup>な</sup>り<sup>り</sup>起<sup>お</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>。吉<sup>きち</sup>切<sup>せつ</sup>菴<sup>あん</sup>乃<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>と<sup>と</sup>る<sup>る</sup>。常<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>聲<sup>せい</sup>取<sup>と</sup>の<sup>の</sup>也<sup>なり</sup>。少<sup>せう</sup>欲<sup>よく</sup>  
 小<sup>せう</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>大<sup>だい</sup>利<sup>り</sup>と<sup>と</sup>失<sup>しつ</sup>ひ<sup>ひ</sup>。身<sup>み</sup>の<sup>の</sup>程<sup>ほど</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>で<sup>で</sup>と<sup>と</sup>分<sup>ぶん</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>わ<sup>わ</sup>ざ  
 ける<sup>ける</sup>。昔<sup>むかし</sup>の<sup>の</sup>金<sup>かね</sup>件<sup>けん</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>て<sup>て</sup>ハ<sup>ハ</sup>上<sup>じやう</sup>は<sup>は</sup>溺<sup>にやく</sup>き<sup>き</sup>。明<sup>めい</sup>て<sup>て</sup>ハ<sup>ハ</sup>欲<sup>よく</sup>り<sup>り</sup>眼<sup>がん</sup>  
 くら<sup>くら</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>を<sup>を</sup>流<sup>なが</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>果<sup>ぐ</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>公<sup>こう</sup>。負<sup>おん</sup>板<sup>ばん</sup>虫<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>本<sup>ほん</sup>より<sup>より</sup>落<sup>らく</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>信<sup>しん</sup>

ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>わ<sup>わ</sup>ざ<sup>ざ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。思<sup>し</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>考<sup>かう</sup>我<sup>われ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。求<sup>もと</sup>む<sup>む</sup>ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>思<sup>し</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 つと<sup>つと</sup>。解<sup>げ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>呼<sup>よ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

十

蘇<sup>そ</sup>娘<sup>ぢやう</sup>ハ<sup>ハ</sup>竹<sup>ちやく</sup>の<sup>の</sup>翁<sup>おん</sup>が<sup>が</sup>拾<sup>しやく</sup>ひ<sup>ひ</sup>わ<sup>わ</sup>けて<sup>て</sup>育<sup>そだ</sup>ち<sup>ち</sup>。と<sup>と</sup>月<sup>げつ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>人<sup>にん</sup>れ<sup>れ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>り  
 三<sup>さん</sup>程<sup>ほど</sup>よ<sup>よ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。わ<sup>わ</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>す<sup>す</sup>つ<sup>つ</sup>中<sup>ちゆう</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>。さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 へ<sup>へ</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 け<sup>け</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。故<sup>ゆゑ</sup>に<sup>に</sup>今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

○木  
 ○三

かしこく。姫を奉り此世の持るる終の業をくさす。似どむてあついなる。五人の浮塔を通りて。夫婦の情を果したる目も見え程されば。翁も姫に口説て。そのよしを歎きいふ。この人おもしろくおもしろく。此うのおやうな人。結ん。昔よりまき愛とをさし。そのめく方便をたじ。求むるに。皆いつつうけてうけつ。まは。くうて。翁もあふらま。其後津門よりのは使め。とげをうけしう。おら切はて。ゆらう。津將よよせて。翁が家。津幸のけし。こころとるに。る。親色のい。わづれ。い。お。後。さ。ま。た。其。年。れ。八。月。十五。の。夜。空。より。あ。や。ま。ま。じ。う。の。雲。よ。り。天。は。を。う。

のやうに。津門へ不死の業の。る。津門と。あ。い。て。不。二。乃。藏。の。か。さ。あ。い。て。そ。後。と。れ。ど。と。せ。評。と。く。天。津。罪。と。わ。く。て。憎。く。人。間。を。屠。り。殺。せ。れ。は。此。世。の。人。れ。ど。う。い。ふ。人。は。ば。を。さ。う。さ。う。う。人。さ。ふ。り。て。く。れ。ら。返。答。も。な。し。中。納。言。の。見。え。ら。う。と。腰。お。さ。し。う。と。さ。ら。い。津。門。の。ゆ。さ。い。の。ま。ま。と。ぬ。の。や。て。不。死。乃。業。を。残。し。ま。る。業。乃。契。と。傳。へ。る。と。天。乃。公。地。の。公。ら。う。り。る。は。ぐ。陰。謀。れ。和。合。な。る。ぐ。雪。降。を。て。群。鳥。あ。ら。し。て。求。合。風。起。ん。と。て。公。金。屋。人。い。ら。る。事。物。の。前。に。必。く。と。わ。り。毒。と。焼。て。志。志。を。た。ぶ。す。の。

○津門集  
○二五



在急の中將へ竹の園生れ事案にて平人の持るる縁の實さ  
 一の園守と申すも何ぞと云われ魂と云ふもあらずと云て清  
 づりぬ湖ささび野の盗人と云りて持つてぬ我もこの園守  
 仕院言ふ大津の津杖代さそのじしてさいつの鳥居の案の  
 月血をまじりけりまりの道切やぬぬれ妹乃の草紙縁  
 よげと云く人の縁づを情じと云く何れもまて人をば  
 うらぬよかみ茂る下社に後れ

わのいづげも津代のこもりて縁に

じくかざりぬまの身あつたま

此より存吉の化身と云われぬいづるも縁にを其は公

けりる女いづ情わん男よわいえてがあつと云くいせんは後  
 きた縁に愛物縁をば二人女子の情多く返答て中ぬと云  
 くる子かんがはぬ男が如きと云ふる此女けりまのじ黒人の  
 情にいと此中將ふもいと云ふわらう將りきるるふ  
 縁合て道く馬の口強うてがうきえと云ふいせんはあつ  
 て本く寝おさう。ね後男と云うけしむ女男の家よりてい  
 ともさる縁にわここのふと云く

百と云ひいと云きまはほくとしがらん

けりる女いづ情わん男よわいえてがあつと云く

とて出立うまると云く新上縁よりして家にあつて打附る。





明<sup>あかり</sup>中<sup>ちゆう</sup>日<sup>にち</sup>く<sup>く</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>め<sup>め</sup>。ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>う<sup>う</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>も。  
こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ハ<sup>ハ</sup>被<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>う<sup>う</sup>た<sup>た</sup>れ

源氏

祢<sup>ね</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>わ<sup>わ</sup>を<sup>を</sup>終<sup>しゆう</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>一<sup>いち</sup>群<sup>ぐん</sup>の  
病<sup>びやう</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>が<sup>が</sup>草<sup>そう</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>也

世云

か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>づ<sup>づ</sup>ま<sup>ま</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ね<sup>ね</sup>バ<sup>バ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>う<sup>う</sup>那<sup>な</sup>  
い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>ナ<sup>ナ</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>ん

一<sup>いち</sup>本<sup>ほん</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>へ<sup>へ</sup>び<sup>び</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>い<sup>い</sup>世<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>後<sup>ご</sup>  
不<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>え<sup>え</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>ほ<sup>ほ</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>今<sup>いま</sup>  
ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>末<sup>すえ</sup>の<sup>の</sup>情<sup>なさけ</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>ん

五十

釋<sup>しやく</sup>の<sup>の</sup>降<sup>かう</sup>意<sup>い</sup>ハ<sup>ハ</sup>十<sup>じゆ</sup>の<sup>の</sup>衆<sup>しゆう</sup>ハ<sup>ハ</sup>子<sup>こ</sup>日<sup>にち</sup>本<sup>ほん</sup>才<sup>さい</sup>三<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>者<sup>しや</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>と

唐<sup>たう</sup>を<sup>を</sup>使<sup>し</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>志<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>は<sup>は</sup>得<sup>とく</sup>無<sup>む</sup>ま<sup>ま</sup>け<sup>け</sup>で<sup>で</sup>曾<sup>そう</sup>利<sup>り</sup>欲<sup>よく</sup>ふ<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>後<sup>ご</sup>賢<sup>けん</sup>  
徳<sup>とく</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>で<sup>で</sup>勇<sup>ゆう</sup>猛<sup>もう</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>仰<sup>おほ</sup>し<sup>し</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>。ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>日<sup>にち</sup>兼<sup>けん</sup>回<sup>かい</sup>を<sup>を</sup>志<sup>し</sup>  
方<sup>かた</sup>て<sup>て</sup>中<sup>ちゆう</sup>國<sup>こく</sup>ふ<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>國<sup>こく</sup>み<sup>み</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>梓<sup>し</sup>壽<sup>じゆう</sup>の<sup>の</sup>社<sup>しゃ</sup>を<sup>を</sup>造<sup>つく</sup>り<sup>り</sup>み<sup>み</sup>ま<sup>ま</sup>お<sup>お</sup>  
し<sup>し</sup>も<sup>も</sup>十<sup>じゆ</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>法<sup>ぽう</sup>社<sup>しゃ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>六<sup>ろく</sup>十<sup>じゆ</sup>余<sup>よ</sup>列<sup>りやく</sup>の<sup>の</sup>男<sup>なん</sup>女<sup>にょ</sup>れ<sup>れ</sup>結<sup>むす</sup>び<sup>び</sup>と  
か<sup>か</sup>ん<sup>ん</sup>せ<sup>せ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>み<sup>み</sup>が<sup>が</sup>て<sup>て</sup>面<sup>めん</sup>向<sup>かう</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>身<sup>み</sup>心<sup>しん</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>た<sup>た</sup>  
ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>其<sup>その</sup>國<sup>こく</sup>れ<sup>れ</sup>神<sup>かみ</sup>を<sup>を</sup>我<sup>われ</sup>民<sup>たみ</sup>に<sup>に</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>末<sup>すえ</sup>後<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>  
女<sup>にょ</sup>に<sup>に</sup>男<sup>なん</sup>ふ<sup>ふ</sup>亮<sup>りやう</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>り<sup>り</sup>。夢<sup>ゆめ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>利<sup>り</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>。あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>  
と<sup>と</sup>後<sup>ご</sup>乃<sup>のち</sup>國<sup>こく</sup>を<sup>を</sup>國<sup>こく</sup>え<sup>え</sup>ら<sup>ら</sup>。我<sup>われ</sup>古<sup>こ</sup>郷<sup>きやう</sup>の<sup>の</sup>縁<sup>えん</sup>起<sup>き</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>んと<sup>と</sup>か  
そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>後<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>。平<sup>へい</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>興<sup>かう</sup>が<sup>が</sup>始<sup>はじ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>れ<sup>れ</sup>んと<sup>と</sup>考<sup>かう</sup>へ<sup>へ</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>  
淨<sup>じやう</sup>亮<sup>りやう</sup>と<sup>と</sup>結<sup>むす</sup>び<sup>び</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>。い<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>れ<sup>れ</sup>に<sup>に</sup>我<sup>われ</sup>を<sup>を</sup>師<sup>し</sup>の<sup>の</sup>

一<sup>いち</sup>本<sup>ほん</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>へ<sup>へ</sup>び<sup>び</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>い<sup>い</sup>世<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>後<sup>ご</sup>

三<sup>さん</sup>十<sup>じゆ</sup>九<sup>きゆう</sup>









申  
三  
三



申  
三  
三



おんしつゝ。そのまほなる飛が。靴のまは焼く。流るる名は。の  
うや。奈の能く。あうや。根せの。あやう。根位。粹よ。い。う。あ。半  
なり。半。粹。れ。族。乃。下。子。氣。の。ゆ。け。勢。未。熟。粉。う。神。の。ま。熟。せ。り。と  
甘。味。と。つ。け。ま。で。根。う。れ。味。あ。う。ね。い。の。あ。ま。あ。味。の。あ。ら。は。  
腐。乃。は。ろ。る。たり。と。う。り。つ。き。の。あ。の。物。も。く。じ。ま。く。臭。氣。の。付  
旅。よ。ま。お。わ。れ。と。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
く。俵。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
これ。を。ま。わ。り。よ。い。遊。吹。の。後。と。ま。ひ。日。本。に。い。地。に。い。男。と  
そ。れ。ら。の。後。ま。り。の。俵。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら

我。ぞ。す。す。鼻。で。う。た。を。茶。茶。を。四。め。ね。ら。う。り。と。想。は。み。あ。十。日  
ほ。う。り。悪。智。悪。つ。と。て。流。行。奇。き。へ。わ。り。を。わ。り。の。後。ま  
と。ら。う。り。は。柳。子。よ。け。ま。ら。や。と。あ。い。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
希。開。と。ま。わ。り。俵。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
と。ま。わ。り。俵。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
お。た。か。す。り。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
ま。の。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
紙。と。う。せ。け。つ。け。ぬ。よ。愛。と。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
く。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら  
味。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら。じ。味。の。み。そ。あ。が。味。の。あ。ら。は。い。ま。ら

〇三十四



余のよれ書踏と。いふよとんべん知るるのどがらひさ  
 くらきやう。何を名考とらふも。右件れは料をぞ  
 浴よ測よた測くぞ。彼毒蛇とさづむら。滋の一字と  
 ろつてとぞ。彼より至款乃はてん運りて我も至款  
 乃はてん。至款くり交合の終。至毒の考はさ  
 得ぐ。令づまのぬねさんま。けりまうれくびら。せを  
 めぐけしとぞ。

艶道通鑑卷之二

釋教之志目錄

- 一 忘菴渴仰乃段
- 二 小野小町の段 附 僧正遍昭其事
- 三 智光法師の段
- 四 朝勸上人乃段
- 五 書写性空上人の段
- 六 清水法師の段
- 七 道明法師乃段 附 和泉式部の事
- 八 慈惠僧正の段 附 吉水和尚其事

九 西行法師の殿 附 江口の君々幸

十 祇王清前乃殿

十一 横笛乃殿

十二 一遍上人の殿

十三 蛇を懐にまわれ殿

十四 文永弘安乃殿

一

急茶湯作とて二千年茶の惣れ高根の雲ぐくり一乃瓜  
とてふも急なり五十六位の後の曉と待て。竜花乃葉を  
のこむと急也。鈴乃鶴と啄をりし枝。叫猿の腸  
を斬り。毒を吐つと子瓜やよとぐいどぐと急也。炊煙と  
ついで急なり。急なる男女のかけついで急なり。急なる  
其中に男女の交り。ほくきとた物ありて。百八炊煙の枝一  
急茶可急乃根えとるゆふ。迷つ何りし急あやまの  
か。他生曠劫の継もなる。是れよりて其識に至る  
強。私乃情はゆるとれ。三途の業道の急るれば一連  
乃急。急なるも昔は。後い後とされて急。又私乃情也。

急茶湯作

急





とあるところを以ていわざる。此の精を以て。さういふ今日  
は世の業の身。夜で飛とほう。氣力にまう。精と出で  
亂れ。寒う。はく。身めと。業と。是れ。心  
一付い。び。お。料。り。心。は。い。か。業。は  
せ。分。別。エ。ま。ゆ。も。身。心。痛。く。宿。と。生。じ。天。年。と。は。く。と  
う。は。う。一。天。年。と。あ。ら。う。も。一。生。用。を。終。つ。は。方。を。中  
う。ま。の。中。う。か。う。う。う。身。と。く。は。じ。う。こ。の。此。事。也。  
欲。は。頂。か。う。十。六。夜。の。月。乃。欠。く。此。事。と。わ。ら。う。と。十。三  
十。四。乃。終。う。と。は。う。う。う。う。と。余。の。事。か。り。ま  
ぞ。う。れ。は。忘。る。お。情。も。着。と。れ。の。迷。入。執。と。れ。は。わ。や。う。

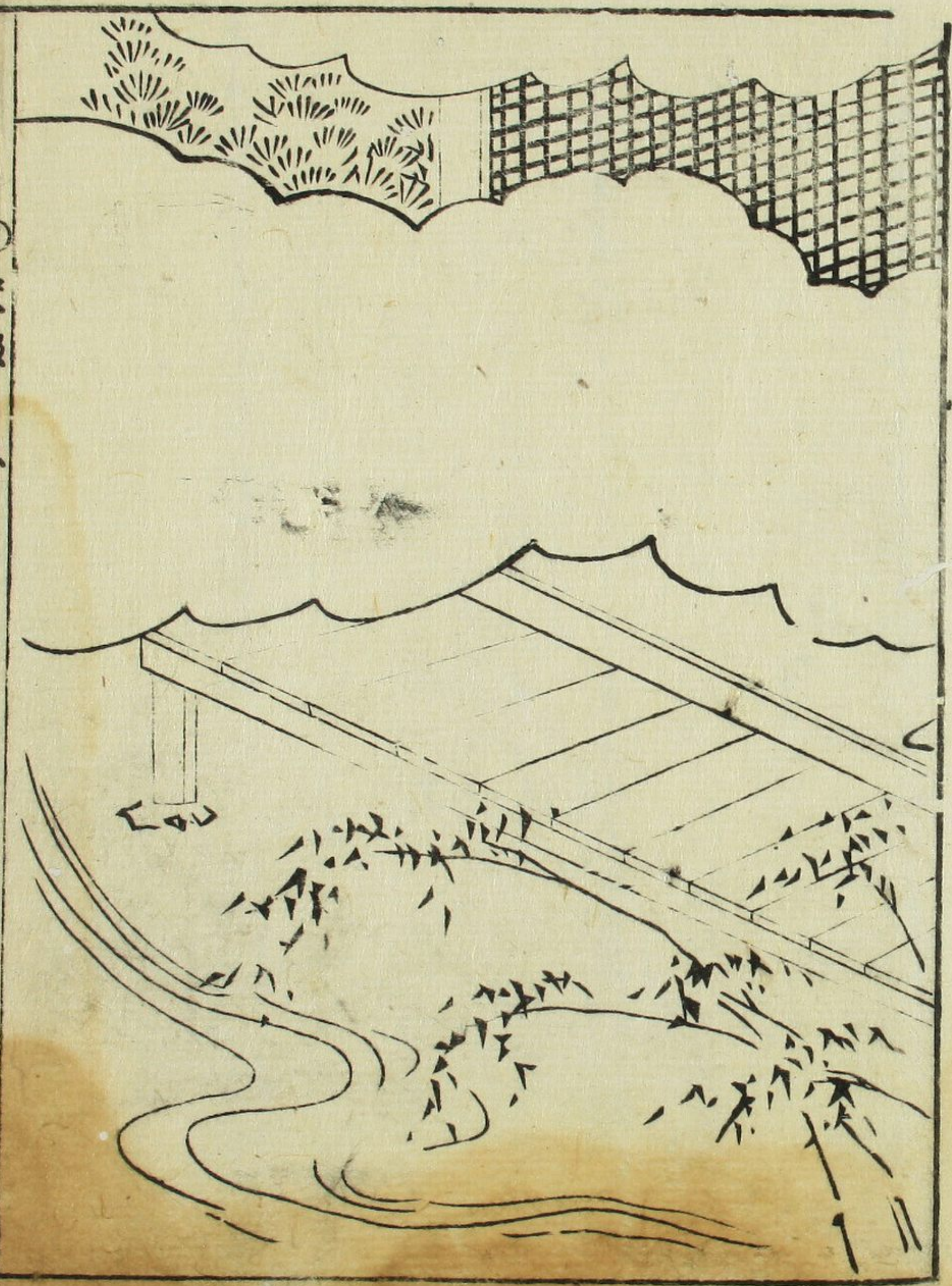
執く着く。取まらして。忘る。お。情。と。捨。く。は。世。道。か。う。て  
一。日。と。世。界。が。あ。ら。う。の。状。

二

小。路。の。お。所。が。事。は。う。う。う。と。は。業。好。と。あ。り。色。の。ま。ぐ  
い。た。く。智。智。廣。ま。の。眼。の。う。り。信。く。世。の。志。と。う。也。は。う  
く。あ。い。その。れ。が。智。と。あ。ら。う。身。を。忘。慢。て。彼。方。の。心。ま  
此。方。の。み。れ。由。定。う。れ。筆。の。あ。ら。う。格。の。有。志。の。う。い。わ。ら。う。が。う  
て。う。け。つ。ま。だ。う。ら。う。男。女。さ。う。て。痴。ち。う。う。程。よ。う。い。わ。ま。う  
ま。か。ら。う。と。ま。い。と。智。智。よ。母。と。し。て。い。う。う。早。れ。少。得。と。  
あ。ら。う。う。て。忘。死。で。う。う。う。う。わ。い。つ。れ。亦。後。て。業。平  
み。は。あ。ら。う。男。女。の。い。わ。ら。う。に。物。本。を。色。と。う。て。の。あ。ら。う。い。

○ 天。地。の。心

○ 四



惟<sup>たゞ</sup>三<sup>さん</sup>平<sup>へい</sup>とあがりて。我<sup>われ</sup>うすまらねた。さき<sup>さき</sup>は<sup>は</sup>まの<sup>ま</sup>科<sup>か</sup>にせし  
もの<sup>もの</sup>は<sup>は</sup>まの<sup>ま</sup>根<sup>ね</sup>とをきして。身<sup>み</sup>の<sup>み</sup>せらうて<sup>て</sup>音<sup>ね</sup>あや<sup>や</sup>。あ<sup>あ</sup>香<sup>か</sup>  
小<sup>こ</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>也<sup>也</sup>。あ<sup>あ</sup>香<sup>か</sup>も<sup>も</sup>色<sup>いろ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>付<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>す<sup>す</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>拾<sup>し</sup>つ<sup>つ</sup>を<sup>を</sup>忘<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>  
ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>余<sup>よ</sup>方<sup>ほう</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>と<sup>と</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ど<sup>ど</sup>。ほ<sup>ほ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>髪<sup>かみ</sup>を<sup>を</sup>て<sup>て</sup>。路<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>き<sup>き</sup>  
私<sup>わ</sup>を<sup>を</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>。後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>花<sup>はな</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>色<sup>いろ</sup>の<sup>の</sup>紅<sup>べに</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>。今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>せ<sup>せ</sup>。花<sup>はな</sup>  
が<sup>が</sup>こ<sup>こ</sup>て<sup>て</sup>。ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
ら<sup>ら</sup>。又<sup>また</sup>懲<sup>おこ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>也<sup>也</sup>。物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>。小<sup>こ</sup>町<sup>まち</sup>が<sup>が</sup>碎<sup>くだ</sup>ね<sup>ね</sup>乃<sup>なり</sup>  
鼻<sup>はな</sup>弁<sup>べん</sup>に<sup>に</sup>も<sup>も</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>ま<sup>ま</sup>ど<sup>ど</sup>る<sup>る</sup>げ<sup>げ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>や<sup>や</sup>。と<sup>と</sup>小<sup>こ</sup>町<sup>まち</sup>が<sup>が</sup>  
揚<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>形<sup>がた</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>少<sup>すく</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>忘<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を<sup>を</sup>知<sup>し</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>。後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>  
五<sup>ご</sup>凌<sup>りやう</sup>乃<sup>なり</sup>を<sup>を</sup>忘<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>

遍<sup>へん</sup>昭<sup>しょう</sup>ありと固<sup>かた</sup>て

ふ<sup>ふ</sup>乃<sup>なり</sup>上<sup>じやう</sup>。花<sup>はな</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>忘<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>

少<sup>すく</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>。こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>。或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>元<sup>もと</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>。男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>めづ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>に</sup>女<sup>めづ</sup>

〇六

女官達のいひあひらふ

女官 花井がうらやまをたやうやん

あわねくつこりなををやうやん

とてとけりて帰るとする紙馬の内侍

紙馬 へいあわねくつこりなををやうやん

まけの杖をいせしとて見よ

遍昭の奇い。花井は跡をさうさう一一夜福であらうな  
をた我は残るやうい。いふもさう腹さうしてやうじまら  
契のわらう終いといふ。あの下をさうさう也。はけがさうい。あご  
ろをいふもさうおめうす人さうさう。これさうあさるさう

換なり。花井も名も持うまごい。わらば我もさうさう。ま  
の契かしては名もまごい。いふもさうさう。あさるさう

はさう。意といふさうい。あさるさう。今時の人さうさう。

又娘と物づらうて。まごい。點教は名れい。さうさう。

さうい。料をゆづらう合て。さうい。あさるさう。わのさうい

まけ。男いさう。あわねくつこりなををやうやん。あの子は物さうさう。はけで

の。陰言いさうい。犬猫乃。あなをさうい。まごい。さうさう。

さうい。わらば。あさるさう。まごい。さうい。

三

王餘魚の片をげさうい。いさうさう。あの子は物さうさう。はけで  
あさる物。はて葉物のさうさう。あさるさう。あさるさう。

あさる物

あさる物





けがら。今より後。まき文のるよ入て。まふふやりのを  
 如。佛の由は乃ほ。いんらつて。もつた。の。の。い。あ。う。い。あ。う。の。の。  
 也。又。は。れ。せ。う。け。て。ま。ご。ら。の。ま。ご。ら。ん。の。の。あ。う。が。お。の。ま。ま。う。を  
 わ。げ。あ。る。眼。は。泪。と。う。て。そ。の。い。や。う。ま。ま。あ。ま。お。を。か。を。い。ひ。の。を  
 と。あ。り。して。夜。合。を。い。て。は。ら。の。悔。は。う。の。明。れ。年。か。よ。  
 彼。嫌。悔。う。ま。い。情。の。ん。う。ら。う。七。日。の。間。は。け。う。け。せ。と。ま  
 多。い。あ。う。の。河。と。う。の。の。あ。う。の。文。の。修。り。ま。れ。て。あ。の。せ。ん。て。あ。う  
 一。の。の。い。あ。う。の。う。の。眼。と。於。て。修。修。は。眼。を。し。け。う。程  
 よ。也。即。是。空。の。観。が。して。彼。嫌。の。観。音。の。化。身。あ。り。と。明。ら。り。  
 徳。行。の。業。徳。の。を。ま。ご。ら。の。ま。ご。ら。う。の。修。基。茶。は。つ。て。た。て。南。無。乃

智光法師とい是也 浄土の曼荼羅かきまき  
利益を一人にわくらう

評。よ。曰。此。長。者。先。の。せ。し。福。力。の。あ。う。ら。う。不。に。あ。て。物。の。修。り。は  
 ぐ。ら。性。命。と。指。せ。い。ら。う。と。求。ふ。得。也。ま。ご。ら。の。至。誠  
 の。信。力。の。あ。う。ら。う。と。観。音。の。い。ん。ら。う。と。あ。う。て。う。の。観。と。基。き  
 ち。う。し。う。け。悪。縁。あ。り。て。後。う。た。を。ま。え。う。の。利。益。を。又  
 智。光。の。後。う。て。万。人。を。と。く。い。あ。う。の。修。り。の。計。と。り。て。い  
 て。佛。の。入。ま。う。ま。う。妙。莊。嚴。王。の。昔。の。あ。う。が。う。の。あ。う。  
 は。う。あ。の。修。り。の。門。は。ま。う。と。ま。う。の。修。り。の。あ。う。の。あ。う。の。あ。う。  
 本。也。と。理。よ。ま。う。と。ま。う。の。あ。う。の。あ。う。の。あ。う。の。あ。う。  
 能。く。エ。ま。う。と。ま。う。



雪の白き袖をけしきまへて流るる。後の名もたれず。健  
 小の志はくはふ中じは朝勅と人としてせしむ。香行の巻也。  
 圓の巻の巻。名刺の巻と定。湘水のけし業障の  
 垢と滑る。春より此身を科の人物としてをひかまけしは。  
 承とておぬの肌寒くし。こ夜の破さるる松のつと命  
 をけさるるおの。風はゆきよりさひれよ。一陣の吹らしは  
 夕れも。肩も。さ。も。り。の。念。珠。と。も。ま。さ。だ。は。み。佛。名。松。常。  
 して。十年の勢とさるる終ひらるるが。或可春を鳥の告ふ  
 けり。人我のつとわらうか。か。ら。物。と。懸。絶。して。さ。や。さ。い。も。い。

一は。南。藤。村。の。ゆ。や。い。影。く。ま。だ。ん。意。で。大。宮。人。れ。い。は。ま。さ。お。  
 ぬ。粧。い。と。ぬ。ざ。り。凡。流。を。ほ。く。し。と。り。人。れ。あ。ら。や。お。ま。を。る。極。  
 極。て。の。車。を。や。り。せ。ど。ぐ。と。輿。を。き。き。り。我。が。ら。い。な。極。う。し。う。が。  
 千。馬。と。さ。る。は。ま。せ。の。酒。乃。ま。ご。研。中。う。わ。り。新。米。の。ま。い。り。あ。が。  
 ゐ。ど。う。れ。の。の。げ。ち。も。れ。の。そ。と。是。も。考。へ。た。道。よ。う。と。ん。  
 新。室。の。記。と。こ。じ。か。い。せ。い。に。室。の。ち。り。は。長。き。み。り。う。ご。こ。  
 お。の。車。の。翠。葉。と。さ。り。と。吹。あ。げ。さ。る。ふ。端。最。美。葉。の。女。  
 扇。乃。先。さ。り。け。る。が。上。人。の。し。け。つ。き。か。く。鳩。乃。杖。よ。と。ご。う。ん。  
 筆。心。子。ま。ご。か。ら。は。は。後。ど。て。目。の。あ。や。お。笑。せ。う。よ。は。教。  
 ぐ。と。ん。は。は。も。ご。え。中。の。あ。や。遠。ら。う。う。う。く。二。日。月。乃。登。

新室の記とこじか  
 新室の記とこじか

新室の記とこじか  
 新室の記とこじか

林の繁れ露ふそかたるお誓入大液の美答れ新よみ瓜と  
る新よそをい。羅綺あざむらちねは安ちうは四玉の光  
のかりて。吉祥天とまのわたりねがもちりひく。みくやそま  
そをえさる。漸く本坊より入り給ひて。そ容とねとれび。この  
付よあり。佛侍しじふのありし姿とんて。お額の水一智  
あこの火を消され。執念のこりて後記の月うこれて。あつたも  
わもまねび。うや此身と罪よ終りれ。あつたは名いよまら  
よも。未だ乃悪縁をひん事く中くげ切ぬわいを  
ちよまきりて。妄念とけしん人とさひきて。淨息所のを  
しよらひい。然然とまことまらふよ。んやと亦もは後ド

付さそまい。ねり志を人の清うされ。目か入念一が持て  
坐へのをさるや。ゆけるま。けくま。ゆりて。翠葉の庵に  
は。はのうを後入。上人ふらひく。ねんはらて

神まのころのちよら玉けりま  
ころんちあまゆゆく玉れは

淨息所

極まの玉乃玉ねららとをち  
我をいさる人ねりく玉のね  
や。因えさそまら。ふらち代元情をそとて。正覚のうり  
ま。ちぞく。村生ま。ちい。ちう。ち



室の津よひて花女の中は何ぞやと云はば  
そはけもいふもごも遊んで拜じたまふ。  
小町のなごふもよもやめれなげりか  
飛を俗にやうして室にいひはるは  
酒のこを指すていひつる善男の  
あつていへうつる姿もわづらひ  
サ、ラ波立の中もコタツトら  
志づく目をしてさうてをさ  
男のいはを替へ金の花をな  
とを相を偏の大海。又を  
とを相を偏の大海。又を

いふや信を胸よあてては  
花女がサ、ラ波立の奇也。又目  
して現せざるまはし。又は  
あつていへうつる姿もわ  
涙を袖よけさう。別はも  
ゆをさうは。花女いへう  
ゆるく。宿樂もそ千里の馬  
あつていへうつる姿もわ  
こをねむいひを思ひぬり  
腕の筋よはまそこの洞。浮  
とを相を偏の大海。又を

とをねむいひを思ひぬり  
腕の筋よはまそこの洞。浮  
とを相を偏の大海。又を

又  
又

身もやどじり入。実風うそをばさるや。花重玄の門人。嘆  
 月几事の暗と照と。怪しむすの志はるまゝのわまのり。こ  
 ろの巧を。上人よえつまれば多して。又異國の江にわらうたり  
 まう。おれ縋ひの引綱よ。つぎもはなはあ。今このせそ  
 といげらう。生身れ落埜は。ゆきまにま。そのまじが迷ひ乃  
 雲厚く。又先のせ乃縋わく。その乃引よ。れあんと。とんれ  
 黒をん。花里と。はらうまの。中昔乃律法。その時代ハ衣  
 ちくろ人の。茶屋も揚屋もけ。とぬ事にくそ。びはの姿を  
 うわいの神をけ。とそが。おん衣うけ。と魚舎に。つる。何故  
 小背た。せと。も志。だ。枕綱の。謙状。ゆらふ。酒家。淫屋。ふ



体は衣と油づゝた二布に襟と持犯用遮ハ何ら  
海へけんと下墨入るふ。全く身を正しんを瓜磨くして固め  
りよらぬ。只耳に塗て早吐性織らると喜矣。妙やくゆえら  
るを固く後世の姓とるの也。寒山拾得一峰をさるるに  
四足かぐ。青毛と名をまど。一向を俗とる者ハそのまどが  
科のまはを弘めて人ノ教をさる。不付依らるは盗の中れ  
盗かり。後季の濁世らるは禁戒も破る。佛制もさひ  
く。さるるを風をさるねぬ中れ。社師の授ハ守りて人のそ  
ろと恥せ。世をほどりてさるるをやりく。侍多あまらんぬら  
ましんをまじりぬやよクー

六

唐の武は師虎乃皮をさるるて人をねらる。そのむつとをさる  
賊とる。虎とみきて追くねく。ばよ其皮身をさるれと。ま  
乃虎とみさるるわ。醉狂にがまぬとくけく外道。佛をさるれ  
とて。終に悟道の不まぬ。とく物に因縁をさるみで。一公のう  
はるところ也。昔清水寺のまらる代は。何の律師とや道力  
堅固めで。人ねらるまじりくるをあり。報に音ねらる。風は後  
痛のおをさるげは。名にころれ。滝の清たん公水乃月をみさる  
て。こ密のほららる。あやうぬ。ハ正入道とく。妄想とるるれ  
世をさる。佛の介いぬとさるらど。執世音よのを伴く  
らされらる。或時高橙ふよりて。地まのたらるらり。まじりぬら

つたてのまじりぬら

〇十

入てわたりつらん。婢始るる女房の是も同じく様がりて此の  
まをいふにけふ不意目と目をとる合へに彼女の面慚けぬ  
顔打ちつけて微笑するはるか今も花のうげもさくあき  
嵐もこの色にふらふらにさし入るはくやまをさめりて  
あまのこしに舞ひぬ。観は定座をたはよ。ひのけ体のいつに  
まきまき。彼休のともがらにまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
らその寝ころびたして。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
出し。うはと持たさるる。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
顛肺にもまのこしに。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま

物ものなほりぞ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
乃をいふにけふ不意目と目をとる合へに彼女の面慚けぬ  
顔打ちつけて微笑するはるか今も花のうげもさくあき  
嵐もこの色にふらふらにさし入るはくやまをさめりて  
あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま

かへえぐるに。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
燃燈魔の萌ゆるまきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
つきて同じく。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
くと倍まは。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
る新妾の利剣と用ひぬ。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
悔し神は。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま  
と。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。まきまき。あまのこしに舞ひぬ。ま

〇新妾の利剣と用ひぬ

〇悔し神は

この日の事蹟を記すに、彼を人を知るに、昔より、大  
石に記すに、新令婦なり。まことに、八乃、教へては、頃、宮仕  
の、御、いと、いかに、なせ、て、おの、の、御、は、沈、ま、は、ま、に、事、なり。  
我、は、おの、れ、この、ゆ、き、ち、く、お、ま、さ、ら、ん、と、希、し、ら、ん、せ、ま、ふ、お、  
情、も、の、命、婦、と、い、は、れ、は、も、と、い、ま、ま、と、返、さ、す、こ、お、あ、れ、日  
付、の、病、外、を、床、に、い、ら、ひ、り、お、と、り、と、盤、と、は、さ、り、て、い、り、り  
あ、ら、ゆ、を、い、た、少、ふ、と、り、と、あ、り、お、あ、り、お、い、ら、ん、と、い、ま、ま、と、  
あ、ら、ゆ、を、い、ら、ん、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
は、く、れ、と、り、八、百、金、部、漢、し、は、い、は、れ、の、家、才、一、の、文、を、い、は、ら、  
お、ま、ま、と、り、倍、と、い、は、れ、り、圓、白、板、板、女、と、い、は、れ、り、り、后、世、は、倍、と、

は、倍、り、大、倍、と、い、て、は、入、ら、ぬ、の、ら、は、命、婦、や、倍、た、い、と、い  
ま、ま、と、り、お、ま、ま、の、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
倍、と、い、ま、ま、の、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
と、い、ま、ま、の、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
業、の、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
我、は、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
を、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
つ、ま、れ、お、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
道、明、は、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、  
我、は、倍、は、い、ま、ま、の、倍、と、い、ま、ま、と、い、ま、ま、と、

〇 紀 文 集

〇 廿 八





ぬ名人めいじんのしん新抄しんしょうの梅乃うめのみつりまつりま代よおつかまままの昔  
のかりりくく教しよ乃のんんとと我わづづりりににわわりりととままああづづ信しんととししあ  
さんさんととららまま平へいななくく書か字じのの竹たけ室むろととんんのの中なかよりより六む根ね清きよ淨じよの  
名なははななれれがが和わ泉いづみ或ある終つひりりままるる成なままささととひひてて今け日にちのの魔ま民みんののよ  
ででままるる日にちととてて門かどアアをを閉とりりまますす

くくののれれよりよりくく所しよままるるくくせせ入いりりくく者もの

くくかかううくくくく男おとこのの精しよ乃の月つき

まままま魔ま民みんののてて心こころけけをを破やぶんんととややもものの死し一いっ苦く待まち乃の再また  
ままははてて縁えんととままちちりりてて整ととのりりもも無なくくぬぬ糸いとやや者もの々々人ひと宿しゆく野ののの  
わわりりのの福ふく翁おきなとと一いっ信しんとといいははしし母はは偽いつはりららななるる冬ふゆののぬぬいいととわわれ

いいりりががののららとと田た成なり刈かり童わらわののアアヲヲととつつのの借かりりてておおら  
つつとと清きよくくたた具ぐ明めい乃の日ひ古こさされれ色いろのの衣えををききててををれれ成なり乃のが  
方かたのの善ぜん信しんとと女むすめととわわんん出いりりままるるひひききとと終つひが

時とき雨あめととうういいかかりりののららととみみららままんん

わわららううくくくくととわわららいいくくりりてて来き

彼あ童らとと呼よぶぶくくくくととわわららううととせせいいくくらら子こ細こりり者もの々々人ひと  
ややががつつららととしし石いし集あつままるるくくくく件けんのの童わらわいい福ふく翁おきなのの神かみ  
ををめめととららやや物もの家いえのの者もの形かたちををかかががりり風かぜ乃の小こ神かみととままととらら  
いい隆たか乃の精しよ乃の阿あ羅らのの守まもりり得えたたまま友とも乃の肌かわととてて井いの  
中なかのの清きよくくくく物もの家いえ乃の人ひと肌かわとと魔まづづくくはは不ふ淨じよめめんん

〇 新抄

〇 二

くは肌とすりみだれて不淨とけざる給よとては心か俱は  
乃於もの也。乃明と大内乃育生いせ。生得の知事よ。幼より  
摺みだれ解方とて。老なるのいあはれ。人れ同立るいづこい  
くふ。忠と出まふうう人。行か夫信教の耳と初て世との  
か。明と人れ忠告を告めて多し。又難とめて  
人れ師よりとやめんぬ。

八  
慈惠信正或時。中宮の清方とて。二階戒より八面戒梵網  
乃戒戒に。乃信亦滝れあふ。そ業よ。あふつて給て。況  
之あひくる。各位を肝よとて。降参し。ゆるふ。翠帳の  
也より

有漏地より。無漏地りかよ。釈をよ。いよ  
。時。睡。濯。う。母。は。あ。り。や。く。と。ま。り  
やうち。終。り。か。信。正

吾やいらむ。ひも。も。又。つ。い。が。業。り  
。嘆。一。き。い。落。き。り。わ。は  
此返。亦。は。より。と。浮。り。ま。ら。ん。く。大。師。師。信。の。お。状。あ。ら。ま。る  
く。や。吉。水。乃。和。尚

我、志は、まらぬ。し。れ。の。ほ。の。ひ。ま  
ま。く。ら。り。あ。り。風。さ。り。か。り  
と。徒。ま。ら。し。て。世。の。人。よ。う。く。ら。れ。る。あ。ら。ま。る。や。ん。ん。れ。ら。ま

の。信。正。の。書。

の。三。十。三。

人情かり。さうもとのほらら

何ゆへにそいふにせむと折へ

とていふとちよとては原の袖

元

足達人の物よりうづり給ふらより物。海的情也。さあつて  
塵ごものいより編く意をて。一をいさきて向ひ何の迷  
来りありと。彼利の出入るはじりちからま。ま一年して塵ご  
若いよは編くぬらうものやと。何れも物の入るは編くぬ  
とるに泥ほほのやわたりてを性乃海と味らふ。何れも  
日下物とちよ米の原よりとて。胡麻味香と怖るるるれ  
西行は師廻國乃序にわら浦里は休む。性名と人の若も

るんりく又も愛ふのさつていづれゆへとて。さあつて誰いさより。

日も雲のぬれ。一枚此宿を借りあつてをくれ。中くも海  
乃中も姿に親しくやといふ。とげもちよ返さけいづれ

世の中はいつとてちよとてかゝるる

らこれちよとてぬれいづれとて

や詠やういさる遊女とちよとて

そをいふ人といふはいつの宿

ちよとていふはいつの宿

と通してちよい休む人といふ。雨乃晴間とちよい。

此宿のわらうとて。その夜は其家とちよちよ。若りんがら彼



やうはうけふその返事ありいまだらきいゆりて  
せめてわづらひて

つとねとまらむやうに袖のまじり

我身もいづるまらふの中

といふ又身よはさそそく人ゆりぬさうわれいふつれ  
てかんと書くと又う

髪みららーちんもいふいほちう

いふ身つれいといふらるるう

やまうけふとてふふ海もとらうりく社うけう  
けうとやうの遊人さんとはちあふ人よ別流をせう

いふかんであそぶうめ其心をむせられて一編にほせ  
をさかあふいふもみらうけ宿吾いあじせんの野う戒  
どもいふいふいふいふこれちうんそと相い又骨いい  
あばとちいれいいいいいいいいいいいいいいいい  
おきておまのめく指をうらうらそそそそそそそそそ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
の宴いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふ我名いふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
宿う人いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

川。洋坊まが干物と逢ひよるま。まがたにたれげほせの由家  
はるの浦のかりんを。権師とんそい。戦よりほくご。おるお家と  
て。床を敷と。あそくして。いんがねと。あせだ。衣とけて。返利  
とると也。あ千の大鬼も。唾を吐は。洋からう。へー

十

紅たの風。敷。黄葉のま。梅も。盛る。物のあつら。此を  
乃る。いそのげ。也。平相圓の威。天が。ちん。う。い。比部の  
床。帳よ。妓王ぞ。飾。う。う。う。私。清。量。我。た。う。う。植。て。印。と  
ふ。さ。が。れ。う。の。ら。だ。の。妹。の。妓。女。も。人。お。り。て。お。う。く。下。板。の。層。よ  
お。ど。母。も。う。ね。う。が。き。う。の。老。入。も。う。て。余。の。の。氣。ま。う。も。う。う  
中。の。妓。の。う。い。せ。う。き。く。内。お。ま。り。て。妓。後。妓。使。さん。と。つ。い。

あ。る。を。さ。ん。ぞ。の。折。う。佛。ゆ。さ。て。い。ま。舞。妓。二。八。の。身。れ。の。や。う。ふ  
お。う。く。お。う。く。屋。敷。お。る。を。い。し。う。う。ぞ。と。す。道。理。我。う。う。  
六。波。舞。女。の。だ。れ。ぬ。へ。び。身。い。う。て。本。意。も。や。せ。住。来。か。ざ。り。他  
新。て。指。て。ま。同。し。は。う。う。て。面。次。人。よ。か。り。や。い。ん。昔。由。清。量。云  
小。せ。う。い。ま。ま。い。う。う。ね。く。ま。さ。さ。い。乃。曲。者。か。さ。や。う。う。ね。び  
よ。い。う。も。ち。う。意。て。ま。る。苦。孤。何。ぞ。や。あ。地。う。う。わ。け。い。こ  
る。と。の。あ。お。ら。る。ま。れ。の。り。い。う。り。印。い。返。あ。や。し。怪。と。控。て。の。ま  
い。と。妓。王。母。由。孤。や。指。さ。り。か。殿。の。ゆ。袖。ら。ん。け。く。舞。いた  
あ。ま。し。に。て。南。ま。ま。ご。も。落。と。せ。ま。の。夢。あ。い。り。や。う。う。ま。れ。い  
わ。さ。う。い。何。う。う。お。う。い。と。さ。一。し。一。あ。や。ゆ。後。下。し。西。返。り。あ。れ

かくて遂に淫言<sup>ふんご</sup>のほどさうさういふをききて平入<sup>へいひら</sup>の清き森<sup>きよ</sup>に  
 入りてお本の氣<sup>き</sup>をなれぬ目も<sup>め</sup>もぬれ泥<sup>どろ</sup>を<sup>を</sup>佛<sup>ほとけ</sup>と<sup>と</sup>らよ  
 やの<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 五<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 よい<sup>よい</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 女<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 一<sup>い</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>

船出らねむしおれいおれいおれいおれいおれい

うの<sup>う</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 を<sup>を</sup>な<sup>な</sup>れ<sup>れ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>目<sup>め</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>泥<sup>どろ</sup>を<sup>を</sup>佛<sup>ほとけ</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>  
 や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 五<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 よい<sup>よい</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 女<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>  
 一<sup>い</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>佛<sup>ほとけ</sup>も<sup>も</sup>

のまの佛も

のまの佛も





久しうあまの件はけりてわが縁信がうのまに後林  
 兼といは是をいし。笑むを柳の因位に基き。伯夷が旧態を  
 忘れしをいし。さるるをいし

奇なる處に茂れが子。滝口時頼といふもの。ふね殿の侍  
 とも。六波羅指の仕中。男。髪をうすう。はなまう。はなまう。鳥帽子の  
 着けしをいし。や。さるるをいし。何をいして。二重目  
 せらぬが。親にの。想然子。さるるに。頭の中。あや。ふね殿の  
 所。妹。それゆ。日。毎。は。使。雨。つけ。風。よ。つ。ま。て。は。核。種。う。め  
 ひ。何。の。ゆ。り。も。滝。は。是。を。ぞ。は。し。ら。し。が。男。さ。り。り。く。り。よ。く。お。利  
 かなる。中。宮。よ。ま。は。さ。る。女。婦。女。官。達。お。く。ぬ。り。さ。し。は

の男さるる。い。と。或。母。又。は。使。の。道。に。核。種。く。り。よ。く。さ。め  
 の。滝。は。友。部。と。い。う。う。さ。く。あ。ひ。の。た。ね。さ。る。ぬ。身。の。ま。ま。さ。る  
 や。さ。る。る。の。が。さ。ね。ぬ。り。た。り。ゆ。く。り。さ。る。る。さ。る。る。終。り。ま  
 小。宮。と。求。く。せ。い。を。非。妻。さ。る。る。も。家。に。居。ざ。れ。ば。親。に。せ。ん  
 さ。く。す。る。程。よ。か。い。と。い。う。と。同。じ。か。い。あ。わ。る。の。の。婿。あ。い。ま  
 は。る。ん。ど。も。わ。く。と。い。う。と。わ。れ。ん。と。さ。り。の。よ。由。り。を。老。を。お。り。し。後  
 親。の。面。を。も。よ。く。す。そ。く。或。い。怖。ろ。又。い。腫。り。て。い。は。し。の。後  
 けり。西。王。母。い。い。人。の。昔。い。あ。り。て。今。い。か。う。か。東。宮。親。と。い。う。し  
 じ。か。の。を。の。ゆ。り。て。同。い。い。と。い。う。も。む。う。不。定。の。後。に。只。石。火。の。光  
 母。さ。る。る。に。終。人。長。命。と。い。う。も。七。十。八。十。を。い。は。す。ゆ。き。と。い。う。も。

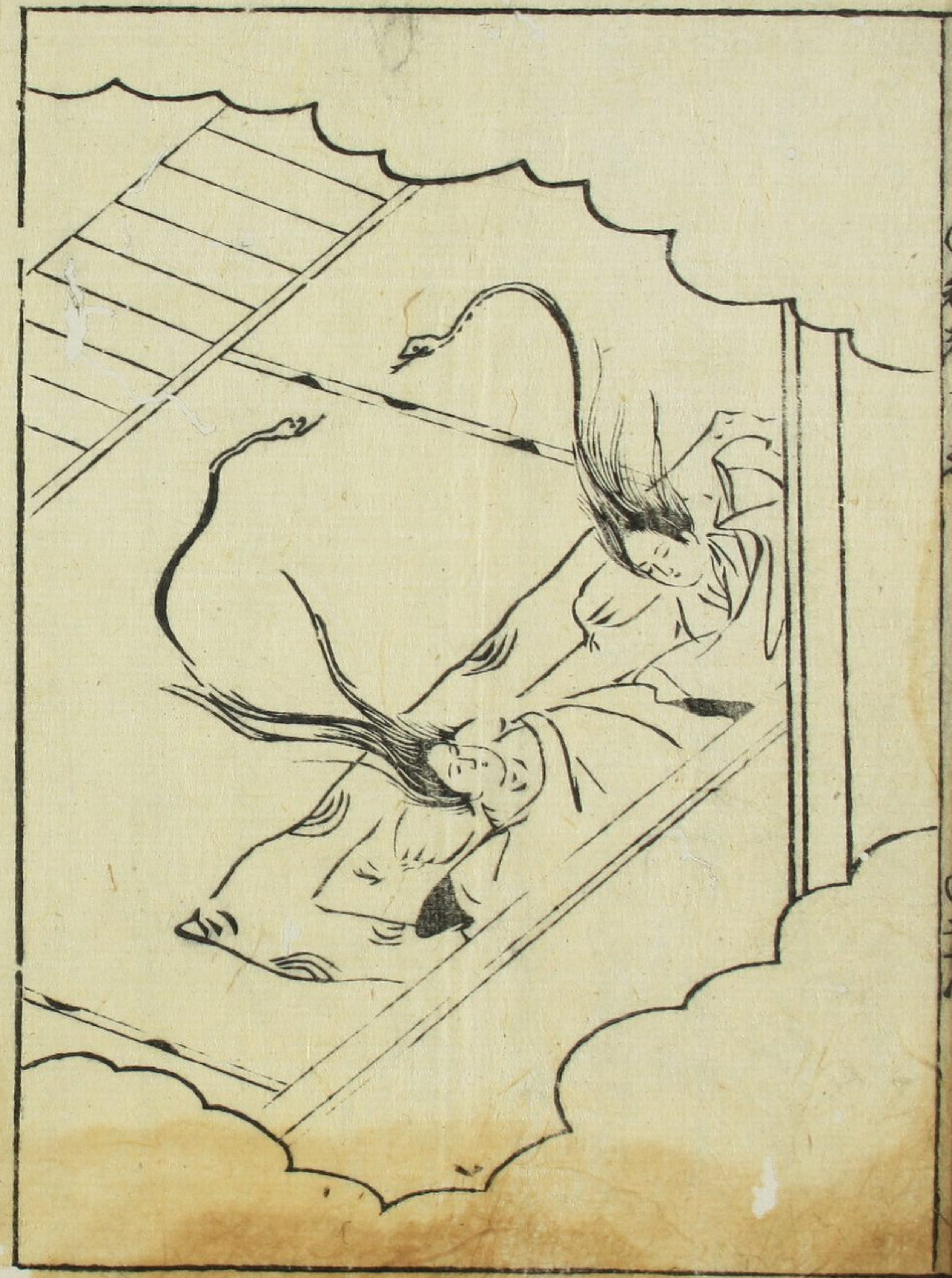
一十

一十



新編  
御成  
御成

御成  
御成



新編  
御成  
御成

御成  
御成

身の老いしむらふ廿余年也。愛幻の世の中に醒者ぞ片何  
 りとて何れ人。おりき老死んことしむ。父の命にまじく。是  
 若くは織り。まはは母といひ。其の道へんをて。十九の  
 駈去切て。活縁の性生院よひい。中て居るゆる。横笛せり。を  
 侍中て。我こそと推れ。松をうみまん。業のうりさよ。彼世と  
 宵をたがう。角とち。色ざらん。人こそをば。よくた。あそねん  
 といつて。或るうた。たか。湯城の方へぞ。わられる。は二月  
 十日余り。ねずるれば。梅けの里れま。風よ。余はの白く。かり  
 うく。大井海の月。新も。まよ。ちちて。睡ちり。一方も。あわつれ  
 とも。活ゆる。こそと。い。くら。性生院とい。同つれ。む。は。う。み

いづれの坊も。きし。ま。じ。ぶ。室へ。緋細の。く。く。中。す。ま。て。は。る。縁  
 ころ。て。全。漸。る。終。い。ま。ま。つ。ら。傍。坊。へ。念。痛。の。お。志。く。ら。紙。境。い。が  
 若く。中。を。あ。り。て。ば。あ。ぬ。の。う。つ。て。わ。れ。つ。と。ん。を。も。あ。り。あ。り。あ。り  
 う。あ。り。づ。い。果。す。て。あ。り。て。は。い。て。具。し。る。あ。り。い。く。せ。る。れ。は。滝  
 口入道。胸打さ。つた。あ。さ。あ。い。清。子。の。ほ。り。眼。で。い。れ。は。裾。い  
 へ。袖。い。海。も。打。ち。た。れ。つ。あ。は。な。は。る。新。り。せ。あ。り。あ。り。あ。り  
 あり。ね。い。ら。あ。大。道。の。者。も。あ。り。い。く。あ。わ。だ。滝。口。入。道。人。を。あ。り。て。  
 全。く。あ。り。い。ま。ん。が。い。あ。り。門。達。し。て。も。あ。り。い。く。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り  
 暗。さ。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り  
 滝。口。い。れ。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り

かゝるく國をくぐり。滝口入道一着のきしきしとてうけか

そふまきといねしうとともわつとら

はこゝのみらり入そふねしき

横笛が返事

うらとてと何ううらとて梓ら

うらとてと何ううらとて梓ら

うのら天路といふありあく。滝口の古小神さん。波の仕  
まゝとてうらねねとてうらねねとてうらねねとてうらねねと

浮とてうらねねとてうらねねとてうらねねとてうらねねと

慥といふ名も始とてうらねねとてうらねねとてうらねねと

時頼も其時といふのみや。凡そあがぬ娘うらうの横笛とてうら

り。是の平の物語の作者。文に流れて義を失くし物うらねね乃

下知れし後うらねね横笛も流るるはとてうらねねとてうらねねと

をてうらねねとてうらねねとてうらねねとてうらねねと

彼形の名は迷うとてうらねねとてうらねねとてうらねねと

雲の香神の洞とてうらねねとてうらねねとてうらねねと

うらねねとてうらねねとてうらねねとてうらねねと

後の昔程とてうらねねとてうらねねとてうらねねと

一遍とてうらねねとてうらねねとてうらねねと

一遍とてうらねねとてうらねねとてうらねねと

家より人好より馬より長びくまゝいと田園にわらひ常々  
湯もぬるる。そのせれつと熱中して。衣服よりうとほく。其  
世の風流男の人のまてり。まじやうされど。そのあはれ  
ひをほく。春のたゆまら。群人の付と。女乃化粧あまらそ。  
書物よりゆへて。別人もかまはし。ほく。そのあはれ。彼  
うと。友達よりや。まはら。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
柳條より。花も。梅の残ま。ま。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
風も。ま。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
肉あ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
し。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

杜より。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

○天竺人

○三十一



温純より徳を以て。あざむくが如く。道に入つた人も  
 乃て我も真なる。是ぞ煩惱即菩提といはれり  
 蛇を懐くも。かぞへず。中を流すも。砂を嚙むも。肉を  
 用ゆるも。料なし。是心か。いへん。執りて。境あり。あるに  
 由らざるが。おし。教し。事なる。や。此家の思。念も。見る  
 疑のころ。と。除く。病と。念し。は。念と。おし。おし。おし。事お  
 わ。此。右。件。の。正。師。より。名。徳。を。け。お。ま。お。ま。り。て。入。  
 色を以て。強の。媒。と。する。其。の。教。多。く。を。徳。を。子。の。和。報。乃。聖  
 人。と。し。海。も。多。い。佛。は。右。佛。の。功。と。立。り。し。ゆ。方。を。さ。る。ま。十。業  
 よ。是。せ。お。し。ゆ。ゆ。せ。こ。人。れ。ゆ。子。わ。り。し。ゆ。深。く。あ。ま。く。し。べき。り。又

菅原の計。夫れ。本。朝。文。道。の。大。祖。也。人。神。と。崇。め。れ。せ。り。も。世。に  
 人。れ。者。を。あ。る。い。れ。こ。あ。ま。く。し。ま。さ。る。冬。無。斯。の。化。を。信。ず。も。始。り。て  
 其。の。中。ま。と。好。し。又。案。て。深。き。は。く。し。も。南。離。の。お。と。く。聴。れ。し。去  
 り。し。る。か。わ。ら。む。破。戒。の。比。丘。乃。地。獄。の。處。と。信。ず。る。は。報。に。る  
 一。か。は。く。滅。は。東。に。放。持。さ。る。地。獄。入。る。の。矣。れ。と。い。は。れ。我。も  
 依。て。言。は。よ。と。い。は。れ。し。ゆ。新。か。れ。の。ゆ。ま。ま。言。せ。必。ず。く。い。は。れ。め。り  
 べ。し。西。遊。一。戒。も。持。た。ず。も。戒。も。破。ら。る。か。を。あ。ま。く。し。ゆ。何。し。て  
 む。り。と。あ。ま。く。し。ゆ。

又。水。江。安。の。日。蓮。師。ゆ。く。四。箇。れ。名。言。と。立。し。信。ふ。と。折。伏。し  
 多。し。亦。謂。會。伴。之。間。禪。天。魔。直。言。亡。國。津。國。賊。と。是。日。蓮。師。

菅原の計

三十四





一に。げきも毒の用ゆれば。法獲の秘法却て亡國の事。果師弘法師もむくさる。律もさる。及宣付師。尚い。あも今肉の律ハ四賊と見ゆべし。其間の事。念外。天魔のあやに度。此國のあやに。國賊のあやに。律と字ゆべし。善控よ入て。蓮師のゆむ手方。扱入るの法。法實相の法。我執。本理よ叶い。同のら。

おき。ぬの。乃糞。の。侍供。た。か。く。乃。あ。世。

やしとゆべまふ佛のいふ御はる言まが。今の世は命紹きつていぢ  
 が持あくとむね世欲に地獄に九情よりいれ愚人け身目より  
 ねをれてむ性乃河法を捨て飛をかざる今日のつらあはむも悪る  
 み落る人をも地獄に申すおしへら上未善控下化衆生たてハ  
 何事と教へ何をもと祿もも。去のよりて他力の奉教はわたりて  
 いよく悪をばらむ。首領乃報をとりとてこゝろとして佛をそ  
 且他をたるとも。惠眼くくはは眼をいりいつつ四眼融入しあ  
 佛眼よりみるん。おと佛くくはは、

此書。生佛土の持よるもいんハ。墮地獄の因か、ねへー

